

今回のしおさいかわら版4月号は、発刊から100号を迎える記念すべき広報紙です。小名浜まちづくり市民会議という団体が発足したのが、西暦2000年12月。この4月で25年4か月が経過いたしました。この長い年月の中で「私たちが住む小名浜をこんなまちにしたいな」「日々の生活を豊かにしたいな」という思いから【小名浜のグランドデザイン】を考え、活動の源として希望の実現のために歩み続けています。将来を見据え、新たな「住みたいまち」という絵を描き続けていくことが大事だと考えます。常に自分はこうしたい！こうありたいな！と思っていると、不思議とそこに近づいていけるものです。



発行所  
小名浜まちづくり  
市民会議  
TEL: 52-1275  
発行日  
令和8年4月15日





1990年代、小名浜には複数の市民団体がまちづくり活動をしていました。団体は違えども「小名浜のまちを良くしたい」という思いは一緒でした。初代会長である里見氏を中心に複数の団体の想いを一つにする為、2000年12月に『小名浜まちづくり市民会議』を起ち上げました。広報紙は団体がどのような活動をしているのか、どのようなことを考えているのか、「市民の皆さんに紙という媒体でお知らせしよう!」と回覧板を通して読んでいただくことを目的としました。当初の広報紙名は「ほっとポトおなはま」。現在は「しおさいかわら版」として定着しました。しおさいかわら版の創刊は2013年11月。今から約12年前です。この間、広報委員会メンバーが皆様のご協力をいただきながら、こつこつと作り上げてきました。

今回の100号を記念に歴代の会長からメッセージを頂きました。



初代会長  
**里見 潤**  
2001年1月  
~2005年3月

自分たちの住む街は、行政頼みではなく自分たちの知恵と汗で創っていくという思いから市民会議は2000年に結成されました。先ず初めにまちづくりの基本となる、ランドデザインづくりに取り組み、街を歩き、語り合っ



2代会長  
**蛭田 修二**  
2005年4月  
~2009年3月

「まちづくりのベクトルを結集し港と街が一体となったまちづくりの推進」をスローガンに、小名

濱が小名浜の一部の人たちの考えに終わっては意味がありません。地域の方と意識共有をはかり、行政計画のなかに位置付けていくためには情報発信が不可欠でした。区長さん方の協力を得て広報紙発行を開始しました。以来、現在まで継続され100号を迎えたことに敬意を表します。今後の広報紙の紙の媒体も必要ですが、一方的な情報発信だけでなく市民と情報の双方向のやり取りをする手段としてSNSの活用と充実を図っていただきたいと思っています。

濱の各種団体が結集し2000年12月に設立した市民会議の広報紙「しおさいかわら版」が100号を迎え、これまでの活動に感謝申し上げます。

活動の軸である「港町おなはまのランドデザイン」で描き、追い求めてきた街が少しずつ変貌してきております。これからの小名浜の変わりゆく風景が楽しみです。



3代会長  
**作山 栄一**  
2009年4月  
~2013年3月

広報紙「しおさいかわら版」第100号の発行おめでとうございます。私は、2008年に第3代会長を拝命し、発足後10年目の節目



4代会長  
**佐藤 毅**  
2013年4月  
~2020年3月

「しおさいかわら版」第100号の発行おめでとうございます! 私が第4代会長をしていた時は、地域の皆様に市民会議の活動の一旦を少しでも伝えたいという



5代会長  
**小沼 郁互**  
2020年4月~

「しおさいかわら版」の第100号発行、おめでとうございます。デジタルの活用が中心となる中で、活字で情報を発信するアナログな広報紙は、潜在している人々の関心を広く呼び起こす大切なツールであり、会費を含めご支援を頂いている皆様への活動報告の手段です。

の年と、2011年3月11日の東日本大震災を経験しました。私たちを取り巻く環境も大きく変わる中、これまでまちづくり活動が続けられていることに、感謝と敬意を表したいと思います。今後、小名浜まちづくり市民会議の灯す明かりが、この小名浜を魅力あるまちに導いていくことを願っています。

思いで寄稿しておりました。私の初夢で語ったスタジアムも実現しようとしています。これから小名浜は大きく飛躍の時を迎えます。地域の皆様と共に夢を育む小名浜まちづくり市民会議と、その思いを伝える「しおさいかわら版」がますます発展することを心より願っております。

広報紙の発行が100号という節目を迎えた今後は、より多くの方の手に届けることが大切な段階になると思います。まちづくり活動を含め私たちの動きを、他の方々に知って頂くこと、広がりを得ることを念頭に、記事内容の充実、発行の継続、そして多くの方に届ける仕組みづくりを200号に向けて作っていききたいものです。



小名浜の軌跡(2000年～)

- 2000 小名浜まちづくり市民会議 創立  
ふくしま海洋科学館 開館  
(アクアマリンふくしま)
- 2005 アクアマリンパークといわきサン  
マリーナが「いわき小名浜みなと  
オアシス」として登録
- 2008 小名浜さんかく倉庫オープン  
(小名浜美食ホテル、潮目交流館)
- 2011 東日本大震災  
国際バルク戦略港湾の石炭部門に  
選定
- 2015 福島臨海鉄道小名浜新駅 業務開始  
小名浜新魚市場竣工
- 2017 小名浜マリブリッジ完成
- 2018 タウンモールリスポ 閉店  
イオンモールいわき小名浜がオー  
プン
- 2022 東港国際バルクターミナル全面供  
用開始
- 2025 いわき・ら・ら・ミュウが道の駅  
へ登録  
小名浜道路が開通
- 2026 小名浜港開港70周年

2026年度の広報・デジタル委員会は会員30名で活動しています。この写真は、ある会議の1コマです。時間制限がある中、メンバーは取材に向いたり、寄稿の交渉をしたり、記事を書き、写真を撮り精力的に活動をしています。現在は、ホームページ・Facebookにも記事を掲載しています。

一番の想いは、小名浜の市民の皆さんの声に耳を傾けて情報を発信し、より豊かな生活が出来るように「住みよいまちづくり」につながることを意識しています。これからもメンバーが一丸となり、活動を続けていこうと思います。

広報・デジタル委員長  
大竹 美恵



小名浜が新スタジアム整備候補地に!!  
**みんなで応援しよう!!**  
がんばれ!いわきFC



- 背番号: 1
- ポジション: GK (ゴールキーパー)
- 氏名: 加藤 有輝 (かう あり)
- 出身: 埼玉県
- 経歴: 大宮~北九州~大宮
- 小名浜の印象: 海がきれい、

ゴルフ、水族館

- 小名浜の好きな場所や行ってみたい場所  
アクアマリンふくしま、子供連れに優しい飲食店



- 背番号: 2
- ポジション: MF (ミッドフィールダー)
- 氏名: 今野 息吹 (こんの いぶき)
- 出身: 東京都
- 経歴: ガンバ大阪~愛媛
- 小名浜の印象: 海が近い

- 小名浜の好きな場所や行ってみたい場所  
イオンモールいわき小名浜

©IWAKI FC



小名浜まちづくり市民会議が設立されたのは、「アクアマリンふくしま」と同じ西暦2000年でした。以来、高度経済成長期の工業化で市民が入れなくなっていた港湾エリアが、アクアマリンふくしまなどにより、賑わい空間として劇的に変化しました。

次の一手は、港とまちをつなぐこと。いくつものまちづくり団体が結集して生まれた市民会議は、設立と同時に港湾背後地である貨物鉄道ヤードの再開発運動をスタートさせました。そこに今、「イオンモールいわき小名浜」があります。港の賑わい作り、商業の活性化、まちなかコンサー

ト、歴史・文化の伝承、さらに近年は小名浜地区の公共施設再編、コミュニティ交通の整備、スタジアム誘致など、果敢にまちづくりに取り組み続けています。市民の皆様との対話ツールである「しおさいかわら版」は、今回で第100号。私たちは、26年間の活動に誇りを持っています。

自分たちのまちは、自分たちで作る。その輪が広がっていけば、もっと小名浜は磨かれていきます。ホットでほっとする港町「ほっとポット小名浜」を作る市民会議の輪に、皆さんも加わってみませんか。会員は随時募集しています。



2月全体議 全会

沈船防波堤の戦争遺跡としての価値

2月26日(木)、まちづくりステーション小名浜にて、2月全体会議が行われました。昨年、奈良大学主催で行われた「第19回地歴甲子園」全国高校生歴史フォーラム」に応募して佳作に入賞した、磐城桜が丘高校2年生の大淵絢慎さんを講師に招き、入賞したテーマ「沈船防波堤の戦争遺跡としての価値」小名浜港の沈船防波堤を論じて」を発表して頂きました。

大淵さんは、沈船防波堤が設けられた背景を明らかにし、その歴史的・文化的価値を明確にすることを目的としてこのテーマを選びました。戦後の港湾工事中止や破壊により失われた港湾機能の回復のため早急に防波堤の設置が必要でしたが、終戦直後でコンクリートなどの資材確保が困難だったとのこと。「早く、今ある材料で港を整備する」ため、戦争で使用された軍艦などを転用し、工期の短縮、資材の節約ができたということでした。

沈船防波堤の設置が確認されたのは全国に10港あり、その1つ小名浜港でも、駆逐艦「汐風」(澤風)が防波堤として設置され、その後50年にわたり役割を果たしました。「汐風」は、平成12年まで1号ふ頭の岸壁として海面に残っていましたが、ふ頭が観光区として整備されたことで完全に埋没しました。現在は、「いわきら・ら・ミュウ」の南側にレンガで分かれるように色分けされています。



澤風は、昭和

40年の漁港区拡張の際に撤去されましたが、2つのタービンのうち1つが三崎公園に記念碑として設置されています。もう1つは個人に引き取られて現存しています。沈船防波堤は戦争に参加した軍艦としての価値と、戦争からの復興を伝える戦力とを伝える象徴として必要であり、評価されるべきだということでした。今後は、沈船防波堤の設置経緯や技術背景をより精微に解明することや戦後復興を伝える遺跡として活用、「平和教育」として戦争の歴史を学び、平和な社会を作っていくことを課題とし、小学生の遠足や校外学習の素材として利用することが出来るのではないかと考えています。ただ、遺跡としての保存環境は適切とはいえず、どのように保管して目に見える形にして生かしていくかが課題という事です。大淵さんは、学生ながら個人で各関係部署に問い合わせをしたり、インターネットや図書館を利用して今回のレポートを完成させたとのこと。その探求心や行動力は、市民会議のメンバーにも絶賛されています。戦争などの歴史の語り部が減っていく中、これからは歴史や文化に興味を持ち、若い力で未来のために発信して欲しいと思います。

鎮魂のキャンドル

西暦2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で15年となりました。今年もアクアマリンパークにて追悼復興祈念が開催されました。今年のキャンドルナイトは、「記憶をつなぐ・未来へむかう」という思いを基調とし、学生たちが主体となり、ステージやブースを作り上げました。東日本大



震災から15年を迎え、震災を経験した方から次世代を担う学生たちへ何を託していくのか、私たちも一緒に考えていかないといけない。忘れられない、忘れてはならない日です。

本町日曜朝市 第3日曜日はボケットパークへ 本町日曜朝市がスタートします。今年第1回は、4月19日(日)午前7時より小名浜本町ボケットパークでスタートします。出店は、とうふ・とうふ 期待せました！今年も「本町日曜朝市」がスタートします。今年第1回は、4月19日(日)午前7時より小名浜本町ボケットパークでスタートします。出店は、とうふ・とうふ

小名浜まちづくり市民会議とは... 小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

会員募集 小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんと一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか？ 年会費 個人会員：3000円 企業会員：30,000円 団体会員：12,000円 お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1 (まちづくりステーション小名浜) TEL：52-1275 FAX：52-1415 http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp

随時FBに活動状況をアップしています。見つけたらぜひ、教えてください。

